

文化課からのお知らせ

次回展示は… 春の企画展「**光太夫の里帰り—帰郷文書の世界—**」
3月18日(木)から

大黒屋光太夫は、帰国後、江戸で幽閉され、むやみに外国のことを口外しないよう厳しい管理下に置かれたと言われていました。しかし、実際には、帰国から10年後に故郷鈴鹿への帰郷が許されています。また、江戸で多くの蘭学者や文人たちと交流し、海外の情報を伝えたこともわかってきています。

次回展示する帰郷文書は、昭和62年に発見され話題を呼んだ古文書群です。幽閉されたと言われていた光太夫ですが、この古文書の発見によって、実際は里帰りを許されていたことがわかりました。そして、この発見は、光太夫の江戸での処遇を見直す契機となりました。

大黒屋光太夫記念館は、鈴鹿市文化振興部文化課が所管する資料館です

以下の所管資料館も併せて是非ご来館ください。

- ・佐佐木信綱記念館 (鈴鹿市石薬師 1707-3 TEL059-374-3140)
- ・伊勢型紙資料館 (鈴鹿市白子本町 21-30 TEL059-368-0240)
- ・庄野宿資料館 (鈴鹿市庄野町 21-8 TEL059-370-2555)
- ・稲生民俗資料館 (鈴鹿市稲生西 2-24-28 TEL059-386-4198)

各館のパンフレットは受付で配布しています。

本の紹介

特別展「西洋に知られた日本人—甫周と光太夫—」で桂川甫周に興味をもたれた方には以下の本をお勧めします。

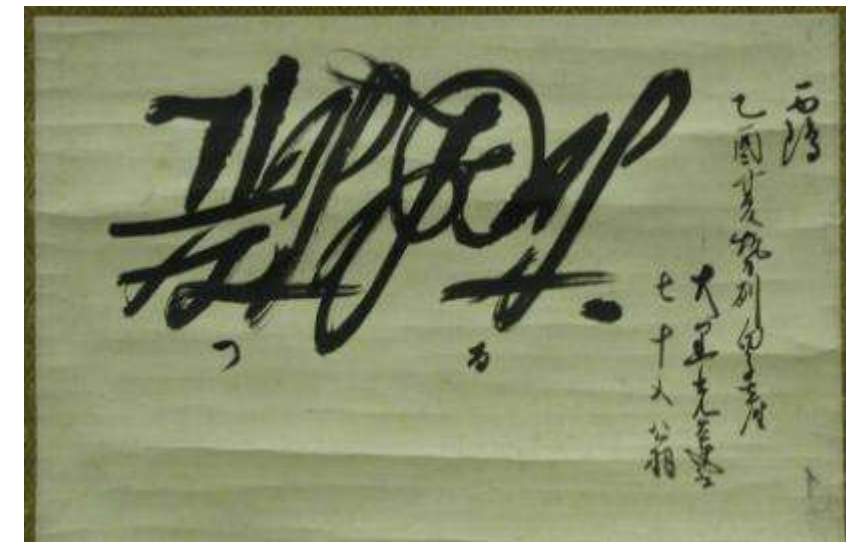
- ①今泉みね『名ごりの夢 蘭医桂川家に生れて』平凡社(東洋文庫)1962年
桂川家の娘・みねが晩年に語った回想録です。江戸時代の雰囲気の手取るようにわかります
- ②戸沢行夫『オランダ流御典医桂川家の世界 江戸芸苑の気運』築地書館 1994年
甫周の弟・森島中良を中心に、江戸文化の中で桂川家の役割がわかる1冊です。
- ③C.P. ツェンペリー著、高橋文訳『江戸参府随行記』平凡社(東洋文庫)1994年
甫周の存在をヨーロッパに紹介した本のひとつです。当時の日本の様子もよくわかります。

編集後記

特別展が終了しました。会期中、1日に平均32名の来館がありました。新聞各社やテレビなどでも取り上げて頂き、多くの方にご来館いただくことができました。ありがとうございました。

また、若松小学校では、ちょうど社会科の授業で『解体新書』をお勉強したばかりの6年生と、昨年大黒屋光太夫についてお勉強した5年生が記念館に見学に来てくれました。教科書に出てくる『解体新書』を間近に見ることで、日本の歴史や光太夫のことをもっと身近に感じてもらえたのではないかと思います。

今回の企画展は、大黒屋光太夫が書いたロシア文字による墨書を一堂に展示しています。光太夫の墨書は、各地に散見しておりますが、当記念館が最も多く所蔵しております。その全てがご厚志による寄贈・寄託です。記念館では、毎年冬に墨書を展示しておりますが、その都度、家宝とも言える品々をご寄贈いただいたことに感謝の気持ちを新たにしております。



「ЦУР」つる 鶴/乙酉夏勢州白子産/大黒光太夫書/七十五翁

平成21年 冬の企画展 光太夫がかいたロシアの文字

ロシアからはじめて帰還し、西洋文明の紹介者となった大黒屋光太夫は、ロシアの文字による墨書を多数遺しています。それは、「イロハニホヘト」など単純に日本語の発音をロシアの文字でつづったものや、「ツル」・「フクジュ」など縁起のよい言葉をつづったものが中心です。いずれも、ロシアという未知の国の文字が珍しかったために、人々に乞われて制作されたものと思われます。その書風は、日本の草書を思わせるような独特のものです。

これらの墨書は、光太夫と交流のあった蘭学者等の子孫が所持していたもの以外には、光太夫とゆかりの深い鈴鹿市白子地区周辺に伝来したものが非常に多いことがわかってきました。光太夫の60代以降の墨書が鈴鹿に集中して残っているということは、光太夫が帰国後も故郷と繋がりを保っていたことを示唆するようにも思われます。

今回の展示では、お正月にふさわしい縁起のよい言葉をつづった光太夫の書を鑑賞していただくとともに、帰国後の光太夫とふるさと・鈴鹿とのつながりに思いを馳せていただければ幸いです。

編集・発行：鈴鹿市文化振興部 文化課 TEL059-382-9031

大黒屋光太夫記念館

TEL & FAX 059-385-3797

芝蘭堂新元会図

紙本石版墨塗刷 明治35年(1902) 鈴鹿市

蘭学者たちと西洋のお正月を祝う光太夫の図

芝蘭堂とは、^{おおつきげんたく}大槻玄沢(1757~1827)が江戸で開いた蘭学塾です。これは、その芝蘭堂で西洋の新年を祝う会(通称おらんだ正月)が開かれたときの絵で、床の間の前の上座に座り、羽ペンでロシア語を書いている人物が大黒屋光太夫です。光太夫は、蘭学者や政治家、文人などにたびたび招かれてはロシア語を教えたり、ロシアの話をしていました。



大黒屋光太夫書

イロハ 48 文字と洋数字

軸装紙本墨書 文政5年(1822/光太夫72才) 鈴鹿市

光太夫がイロハ 48 文字と 1~11 までの数字を書いたものです。48 文字すべて書かれているものはあまり多くありません。

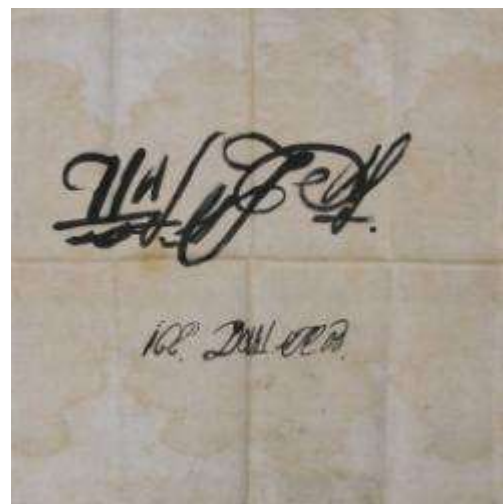


大黒屋光太夫書

ツル (鶴)

軸装紙本墨書 文化11年(1814/光太夫64才) 鈴鹿市

若松の旧家から神戸の旧家へ結婚の祝いとして送られたものです。鶴というめでたい言葉が結婚祝いとしてふさわしかったからでしょう。



大黒屋光太夫書

ツル (鶴)

ふくさ 製作年不詳 鈴鹿市

平成20年に玉垣地区の個人宅から発見された墨書です。玉垣は、光太夫の母の在所があった地区であり、光太夫は、里帰りした時に、母を訪ねて玉垣を訪れています。

出品墨書一覧

芝蘭堂新元会図	軸装紙本墨塗刷	鈴鹿市(鬼頭氏寄贈)
イロハと洋数字	軸装紙本墨書	鈴鹿市(伊藤氏寄贈)
イロハニホヘト	軸装紙本墨書	鈴鹿市(内山氏寄贈)
イロハニホヘト	軸装紙本墨書	鈴鹿市(内山氏寄贈)
ケフヤマコエテ	軸装紙本墨書	鈴鹿市(内山氏寄贈)
イロハと洋数字	貼交屏風(扇面)	鈴鹿市(寺尾氏寄贈)
ナンザンジュ	軸装紙本墨書	個人寄託
ツル	軸装紙本墨書	鈴鹿市(本田氏寄贈)
メイゲツヤ タタミノウエニ マツノカゲ	軸装紙本墨書	鈴鹿市(河野氏寄贈)
ツル	ふくさ絹本墨書	鈴鹿市(川出氏寄贈)
ツル カメ	扇面紙本墨書	鈴鹿市(前川氏寄贈)
ツル	額装紙本墨書	鈴鹿市(福岡氏寄贈)

事業報告

*平成21年度上半期(4月~9月)入館者数 2794人 平均21.5人/日

*第5回特別展「桂川甫周没後200年記念 西洋に知られた日本人 - 甫周と光太夫 -」

▼入館者数 1248 人

開館日数33日 開館時間10:00~16:00 平均32人/日

▼出版物 第5回特別展「桂川甫周没後200年記念 西洋に知られた日本人 - 甫周と光太夫 -」図録

▼主な来館者(敬称略) 津市橋北公民館 若松小学校5年生・6年生 郷土史研究会など

光太夫の肖像

*昨年度購入した「大黒屋光太夫・磯吉画幅」は、「漂民御覧之記」の挿絵に描かれた大黒屋光太夫・磯吉の肖像とおなじ構図をとっています。しかし、このように大きく描かれた光太夫の肖像は今までに例がなく、また、光太夫の顔も、いくつかの本物に近いと思われる光太夫を描いた絵と共通の特徴を持っています。

*当記念館では5月~7月にかけて、「光太夫の肖像」と題して企画展を行い、それに先んじて記者発表も行いました。企画展には、1113人の来館者があり、またお問い合わせも多く頂きました。さらに、教科書関係の出版社からのお問い合わせも多くなりました。これからも、より多くの方にこの資料の存在を知っていただき、「大黒屋光太夫の顔」として、教科書や本などに掲載していただけたらと思っています。

